

吉野幼稚園 園だより 平成31年4月号

主 題：「新しい出会い」
聖書のことば：「神は愛です」

(ヨハネ第1の手紙4：16)

2019年度4月
園長 野田弘之

桜の花をはじめとした、いろいろな花が咲き誇る暖かい春がやってまいりました。この春の訪れとともに、聖マリア学園 吉野幼稚園にご入園、ご進級した園児の皆さん、ご家族の皆さん、誠におめでとうございます。職員一同、心から歓迎いたします。

さて、私は、この4月から吉野幼稚園に勤務することになりました野田弘之と申します。3月まで、県内各地の中学校等に勤務しておりましたが、この度、縁あって、この吉野幼稚園にお世話になることになりました。中学生と幼稚園児では、勝手のちがうことも多々あるかと思いますが、これまでの園長先生の方針を受け継ぎ、一人一人の園児の健全な成長を願って、園の運営に努めてまいりたいと思います。なにとぞよろしくお願いいたします。

吉野幼稚園は、キリストの愛の精神に基づいて運営されるカトリックの施設です。私どもは、新しく入園した年少さん、進級して年中・年長さんになったよい子の皆さんをしっかりお預かりして、カトリックの「隣人愛」の精神と、モンテッソーリ教育を通して、自分のことも、他者のことも、深く愛することのできる、自立した人格に育てたいと思います。

イタリアのモンテッソーリ女史は、深い愛をこめて人間の命をじっくり観察しました。人間の命には、人間になるためのプログラムが組み込まれています。特に幼い子どもたちの動きは、神のプログラムに基づくことを発見して、女史は特別の教育法を確立したのです。

オタマジャクシがカエルになるのは、決まった道筋があり、また昆虫の幼虫が成虫になるのも、自然の摂理です。このように、生き物の命には成長していくそれぞれのプログラムが組み込まれていることは納得することができるのに、人間は、自分の子供の命に人間になっていくためのプログラムが組み込まれていることに長年気づいていませんでした。

モンテッソーリ女史は言いました。特に3歳から6歳の間は「敏感期」と呼ぶべき特殊な時期で、この時期の子どもたちは、何でも自分でやってみようとする、自分でやって失敗し、何度も挑戦して最後にはできるようになる。この繰り返しの中で、ものを理解し、手足の機能を高め、人間としての大事な自信を身につけ、人格が形成されるのだと。

子どもが一人ですのをじっとみつめていて、必要な時に丁寧に、ゆっくり教えてあげることが重要です。「あせり」は禁物です。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、すばらしい御子を育ててまいりましょう。